

改訂日：2024/11/22

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：石油エーテル（国産1級）

製品番号(SDS NO)：D004051-2

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：試験研究用

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：国産化学株式会社

住所：東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署：品質保証部

電話番号：0120-81-5930

FAX：0120-11-5930

e-mail address：cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先電話：0120-81-5930

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分 1

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性：区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 2

生殖毒性：区分 2

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 1(神経系)

誤えん有害性：区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)：区分 2

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

極めて引火性の高い液体及び蒸気

皮膚刺激

強い眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

水生生物に毒性

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合: 指定された消火剤を使用すること。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

化学的特定名：石油エーテル（C5～C6の石油系炭化水素 100%）

慣用名又は別名：VM&Pナフサ、ベンジン、石油スピリット、石油ナフサ

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化学式
n-ペンタン	75～85	109-66-0	2-5	C ₅ H ₁₂
n-ヘキサン	5～15	110-54-3	2-6	C ₆ H ₁₄

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

n-ペンタン, n-ヘキサン

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

n-ペンタン, n-ヘキサン

化管法「第1種指定化学物質」該当成分

n-ヘキサン

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

中毒症状、末梢神経障害及び中枢神経系の抑制、食欲の減退、筋肉の衰弱、運動機能障害、めまい、

眠気、のどの刺激

口内、食道、胃の粘膜の刺激、嘔吐、目のかすみ、下痢、

皮膚の刺激、脱脂

眼への刺激性、痛み、充血

繰返しばく露により、皮膚の乾燥、ひび割れ及び炎症

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

医師に対する特別な注意事項

症状は遅れて発現することがあり、過剰にばく露したときは医学的な経過観察が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

使ってはならない消火剤

噴流水を消火に用いてはならない。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。

蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、遠距離引火の可能性がある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

漏れた液やこぼれた液を密閉式の容器に出来る限り集める。

残留液を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染個所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度及び濃度基準値

(n-ヘキサン)

作業環境評価基準 40ppm

許容濃度

(n-ペンタン)

日本産衛学会(1987) 300ppm; 880mg/m³

(n-ヘキサン)

日本産衛学会(1985) 40ppm; 140mg/m³ (皮)

(n-ペンタン)

ACGIH(2014) TWA: 1000ppm (麻酔; 気道刺激)

(n-ヘキサン)

ACGIH(1998) TWA: 50ppm (中枢神経系障害; 末梢神経障害; 眼刺激)

[ACGIH] 特記事項

(n-ヘキサン)

皮膚吸収

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色透明

臭い：特有臭

融点/凝固点：-73℃以下

沸点又は初留点：30～70℃（沸騰範囲）

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：

爆発下限：1.1vol %

爆発上限：5.9vol %

引火点：-20℃以下

自然発火点：246℃

pH：知見なし

溶解度：

水に対する溶解度：難溶

溶媒に対する溶解度：アルコール、エーテルに易溶

蒸気圧：知見なし

密度及び/又は相対密度：0.634 (20℃)

相対ガス密度(空気=1)：2.6

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

引火性が高い

危険有害反応可能性

蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、遠距離引火の可能性がある。

強酸化剤と反応する。

ある種のプラスチック、ゴム、被覆剤を侵す。

避けるべき条件

火源、熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性データなし

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

区分 2, 皮膚刺激

[成分データ]

[NITE-CHIRIP]

(n-ヘキサン)

(1)～(3)より、区分2とした。

【根拠データ】

(1)ヒトの皮膚に本物質が短時間接触したところ、一過性の紅斑がみられた。本物質(テクニカルグレード)に5時間閉塞適用後にはより重度の影響(紅斑、水泡形成)がみられたの報告がある(EHC 122 (1991)、DFG MAK (2000))。

(2)ヒトが本物質を急性ばく露したところ、皮膚腐食性/刺激性がみられた(ATSDR (1999))。

(3)ウサギを用いた皮膚腐食性/刺激性試験において、22及び24時間後に軽度の刺激性がみられたとの報告がある(DFG MAK (1992))。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 2, 強い眼刺激

[成分データ]

[NITE-CHIRIP]

(n-ペンタン)

ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405相当、GLP準拠)において、一過性の結膜炎が認められ刺激性スコアは3/110であったことから、軽度の刺激性と判断されている(SIDS (2010)、EU-RAR (2003))。以上の結果から区分2Bとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性データなし

生殖毒性

[製品]

区分 2, 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

[成分データ]

[NITE-CHIRIP]

(n-ヘキサン)

(1)より、母動物毒性のない用量から、脳神経系発達の影響がみられたが、試験の詳細が不明のため、区分2とした。

【根拠データ】

(1)妊娠ラットを用いた吸入ばく露による神経発生毒性試験(500～1,000 ppm)において、800 ppm群の6/8匹及び1,000 ppm群の4/8匹の母動物が全期間を通して妊娠を維持した。分娩に至らなかった母動物では、胚の吸収又は後期胎児期における胎児死亡が確認された。妊娠期のみばく露した母体では神経障害はみられなかったが、分娩後に800 ppm以上の2群において、後肢の顕著な虚弱が認められた。1,000 ppm群の母動物では分娩30日後にランビエ絞輪軸索の腫脹が認められた。出生児では全濃度群とも低体重で推移し、500 ppm群は生後25日まで持続した。妊娠期のみばく露群からの出生児では、脳絶対重量低値と脳相対重量高値を示し、この影響は妊娠期と生後も継続ばく露した群ではより顕著にみられた。母動物毒性がみられない低用量(500 ppm)から小脳皮質の発達遅延(小脳虫部第一裂、外顆粒細胞層の移行遅延及びプルキンエ細胞の持続性)がみられた。妊娠期のみばく露群の出生児では生後30日までに回復性を示す。この他、成長及び発達の遅延、被毛の不規則化、活動性低下がみられた。回復にはばく露終了後2週間を要したとの報告がある。(Stoltenburg-Didinger et al. (1990)、US AEGL (2013)、ATSDR (1999))。

(2)妊娠ラット又は妊娠マウスの器官形成期に本物質(純度99%以上)を吸入ばく露した発生毒性試験では、母動物毒性(体重増加抑制)がみられる用量において、胎児に低体重や吸収の増加がみられたが、分類根拠とすべき重大な発生影響は認められなかった(EU REACH CoRAP (2017))。

【参考データ等】

(3) ATSDRIは(1)の試験結果について、調査した子動物の数が不明であり、この報告の意義を評価することは困難であると評価している。また、US AEGLも試験詳細が不明であると評価している。(ATSDR (1999)、US AEGL (2013))。

(4) ラットを用いた本物質市販品 (本物質52%) の吸入ばく露による二世代生殖毒性試験 (OECD TG416、GLP) では、親世代に一般毒性影響のみられた9,000 ppmで出生児に低体重がみられた以外に生殖発生影響は検出されなかった (EU REACH CoRAP (2017))。

(5) 雄ラットを用いた吸入ばく露試験において、5,000 ppmで24時間、又は8日間吸入ばく露 (16時間/日) 後に、精巣・精巣上体障害 (精母細胞の一部変性、伸びた精子細胞の剥離、生殖細胞の変性) がみられ、さらに6週間吸入ばく露 (16時間/日) 後には生殖細胞形成不全及び精細管の完全萎縮がみられたとの報告がある (EU REACH CoRAP (2017))。

(6) ラットを用いた吸入ばく露試験において、1,000 ppmで61日間吸入ばく露後、2週間、10ヵ月及び14ヵ月後に精巣の組織検査を行った結果、精巣傷害のあるラットは全例ともに後肢の筋肉に重度の萎縮を認めた。各観察時期の精巣には精細管の萎縮が認められ、数例では生殖細胞の完全な破壊と傷害を受けたセルトリ細胞のみが精細管に残存していた。アンドロゲン産生及び血清中テストステロンレベルには影響はみられなかったとの報告がある (DFG MAK (2000))。

(7) EU CLPではRepr. 2に分類されている (CLP分類結果 (Accessed Nov. 2023))。

催奇形性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

[製品]

区分 3, 呼吸器への刺激のおそれ

区分 3, 眠気又はめまいのおそれ

[成分データ]

[NITE-CHIRIP]

(n-ペンタン)

本物質は気道刺激性、麻酔作用がある (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1987)、ACGIH (7th, 2014)、EU-RAR (2003)、PATTY (5th, 2001))。ヒトにおいては、目まい、頭痛、麻酔性、中枢神経系抑制の報告がある (ACGIH (7th, 2014)、EU-RAR (2003)、PATTY (5th, 2001)、HSDB (Access on September 2014))。

実験動物では、マウスの吸入ばく露で麻酔作用、協調運動低下、正向反射抑制が認められており (EU-RAR (2003)、PATTY (5th, 2001))、本物質の麻酔作用によるものと考えられる。

以上より、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。

(n-ヘキサン)

(1) より、ヒトの急性ばく露影響は中枢神経系影響 (めまい、嗜眠) と眼、喉への刺激性が主な影響と考えられる。よって、区分3 (麻酔作用、気道刺激性) とした。

【根拠データ】

(1) ヒトでは、ボランティアに本物質2,000 ppmを10分間吸入した場合に無症状であったが、5,000 ppmのばく露ではめまいと立ちくらみを生じたとの報告 (ACGIH (2001)、DFG MAK (1992)、EHC 122 (1992))、1,400~1,500 ppmのばく露後に軽度の悪心、頭痛及び眼と喉の刺激がみられたとの報告がある (ACGIH (2001))。また、本物質への職業ばく露では1,000~25,500 ppmの30~60分間のばく露で嗜眠を生じたとの報告がある (EHC 122 (1992))。

【参考データ等】

(2) マウスに本物質 (99%) を64,000 ppmの濃度で吸入ばく露したマウスは1分以内に麻酔状態に陥り、4.5分以内に呼吸不全を生じた (EHC 122 (1991))。

(3) ラットに本物質を86,000~90,000 ppmの濃度で25~30分間ばく露後に運動失調と自発運動減少がみられたとの報告、2,000~8,000 ppmで8時間ばく露後に鎮静、低体温及び眼瞼下垂がみられ

たとの報告がある(EHC 122 (1991))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

[成分データ]

[NITE-CHIRP]

(n-ヘキサン)

(1)～(4)より、区分1(神経系)とした。

【根拠データ】

(1) 16の工場で少なくとも2ヵ月間雇用された59人のプレス校正作業員(男57人、女2人、平均年齢25.8歳)を対象とした職業ばく露研究において、n-ヘキサンを10～65%の濃度で含む洗浄剤にばく露によって、15人に多発性ニューロパチーの発症、2人にMCV(運動神経伝導速度)の低下が報告されたが、本物質以外に多発性ニューロパチーを誘発することが既知の成分は有意な量では存在しなかった。個人用エアサンプラーを用いて、14/16工場の2人の異なる労働者を対象に2回の気中濃度測定が行われた。最高0.67mg/LのN-ヘキサン空気濃度が測定された。長時間のばく露は時間外労働によるものであった(EU CLP CLH (2022)、EPA Tox Review (2005))。

(2) (1)のように、本物質を扱う作業場において、末梢神経障害の発生率がn-ヘキサンへの長期間の職業ばく露に起因する可能性があることが多数の報告がある。影響の重篤度は、運動・感覚神経伝導速度の低下から重度の四肢麻痺まで幅広い。本物質誘発性の疑いのあるニューロパチー患者の83.3%がばく露中止後12ヵ月以内に完全に回復したことを確認したとの報告がある(EU CLP CLH (2022))。

(3) 本物質の代謝物である2,5-ヘキサジオン(CAS登録番号:110-13-4)はヒトでの既知の神経毒性物質であり、ヒトの症例研究で2,5-ヘキサジオンが多発性ニューロパチーの誘発作用を示すことが報告されている。また、ヒトとげっ歯類では主代謝物が異なり、ヒトでは尿中に2,5-ヘキサジオンがマイナー代謝物の2-ヘキサノールの20～30倍高濃度で検出されるのに対し、実験動物では2-ヘキサノールが主代謝物であり、尿中濃度は2,5-ヘキサジオンの3倍存在する。このため、本物質の神経毒性はげっ歯類に比べて、ヒトは感受性が高いと考えられている(EU CLP CLH (2022))。

(4) ラット又はマウス(1試験のみ)を用いた本物質(純度99%又は純品)の13週間～6ヵ月間(24週間)の5つの吸入ばく露試験において、区分2超の高濃度(500～3,000 ppm)で、症状として歩行異常、がみられ、末梢神経障害(運動神経伝導速度(MCV)の低下、有髄神経線維のランビエ絞輪腫脹、脱ミエリン、ミエリン再生、神経組織における神経傷害マーカータンパク(β -S100)の減少等)、重度の障害例では筋肉の萎縮、筋線維の形状と大きさの不規則化も認められた(EU CLP CLH (2022))。

誤えん有害性

[製品]

区分 1, 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

[成分データ]

[NITE-CHIRP]

石油エーテルはn-ペンタン、n-ヘキサンを主成分とすることから、以下より区分1とした。

(n-ペンタン)

炭化水素で、動粘性率が0.355 mm²/sec. (25/20°C、CERI計算値)であることから、区分1とした。

(n-ヘキサン)

(1)、(2)より、区分1とした。

【根拠データ】

(1) 本物質は炭化水素であり、動粘性率(20°C)は0.47～0.55 mm²/s である(REACH登録情報 (Accessed Nov. 2023))。

(2) 本物質 (液体) を経口投与したラットでは、誤嚥により痙攣と数秒以内の突然死が生じた。剖検では肺重量の顕著な増加がみられ、化学性肺炎による肺浮腫による影響と考えられた。(DFG MAK (1992))。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 2, 水生生物に毒性

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[NITE-CHRIP]

(n-ペンタン)

甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=2.7 mg/L (EU-RAR, 2003; SIDS, 2010) であることから、区分2とした。

(n-ヘキサン)

魚類(ファットヘッドミノー)96時間LC50=2.5 mg/L(HSDB (2013))、甲殻類(オオミジンコ)48時間EC50=3.9 mg/L(環境リスク評価第1巻 (2002)、EHC 122 (1991))。以上の結果から、区分2に該当するとした。

水生環境有害性 長期(慢性)

[NITE-CHRIP]

(n-ペンタン)

魚類(ファットヘッドミノー)96時間LC50=2.5 mg/L(HSDB (2013))、甲殻類(オオミジンコ)48時間EC50=3.9 mg/L(環境リスク評価第1巻 (2002)、EHC 122 (1991))。以上の結果から、区分2に該当するとした。

水溶解度

(n-ペンタン)

非常に溶けにくい (0.004 g/100 ml, 20°C) (ICSC, 2014)

(n-ヘキサン)

0.0013 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2000)

残留性・分解性

[成分データ]

(n-ペンタン)

急速分解性あり (BODによる分解度: 96% (既存点検, 1997))

(n-ヘキサン)

BODによる分解度: 100% (既存点検)

生体蓄積性

[成分データ]

(n-ペンタン)

log Pow=3.39 (PHYSPROP DB, 2005; EU-RAR, 2003)

(n-ヘキサン)

log Pow=3.9 (ICSC, 2000)

土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 1268

正式輸送名 :

石油蒸留物、N.O.S.又は石油製品、N.O.S.

分類または区分 : 3

容器等級 : I

指針番号: 128

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 1268

正式輸送名 :

石油蒸留物、N.O.S.又は石油製品、N.O.S.

分類または区分 : 3

容器等級 : I

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 1268

正式輸送名 :

石油蒸留物、N.O.S.又は石油製品、N.O.S.

分類または区分 : 3

危険性ラベル : Flamm.liquid

容器等級 : I

特別規定番号 : A3

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当) : 非該当

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機則 第2種有機溶剤等

含有有機溶剤

n-ヘキサン

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

n-ペンタン; n-ヘキサン

名称通知危険/有害物

n-ペンタン; n-ヘキサン

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物 ($-30^{\circ}\text{C} \leq \text{引火点} < 0^{\circ}\text{C}$)

皮膚等障害化学物質 (規則第594条の2)

n-ヘキサン

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

ヘキサン(15%)

労働基準法

疾病化学物質 (規則別表第1の2第4号1)

n-ヘキサン

消防法

危険物

第4類 引火性液体第1石油類非水溶性液体 危険等級 II (指定数量 200L)

化審法

優先評価化学物質

n-ヘキサン

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC) 法第2条第4項

n-ペンタン; n-ヘキサン

有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質

n-ヘキサン

海洋汚染防止法

施行令 第1条

有害液体物質 Y類物質 (第1条の2 別表第1)

n-ヘキサン; n-ペンタン

施行規則 第12条の3の2の10

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

n-ヘキサン

16. その他の情報

参考文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

化学品安全データ管理システム "GHS Assistant" Version 4.31 (<https://www.asahi-ghs.com/>)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。